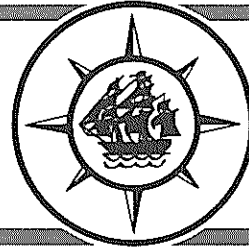


## Operation Raleigh News



Operation Raleigh

DENSO

No.18

昭和61年(1985)4月5日(土)  
毎月1回発行●発行所 オペレーション・ローリー日本委員会  
〒104 東京都中央区築地1-7-10 築地オーミビル502号  
電話 東京(03)544-7413

●このオペレーション・ローリーニュースは日本電装株のご協力で作られたものです。

## アジア・アフリカへ30名を募集

## 1986年次募集要項発表

1986年次オペレーション・ローリー日本代表派遣青年募集要項は、3月20日(木)ORJCから発表されました。今回の30名の募集がオペレーション・ローリーの最後のチャンスとなるため、募集要項請求者は4月7日現在で早くも813名。応募締め切りの5月31日には昨年を上回る応募者数が期待されています。1986年次の募集要項および各フェイズのスケジュール(予定)はつぎのとおりです。

- 主催 ORJCオペレーション・ローリー日本委員会
- 協賛 日本電装株式会社
- 応募 ORJC指定の応募用紙に必要事項を記入して郵送。応募用紙は事務局に請求のこと。
- 宛先 オペレーション・ローリー日本委員会事務局=東京都中央区築地1-7-10(築地オーミビル502号)  
電話(03)544-7413
- 締切 昭和61年5月31日(必着)
- 定員 30名
- 資格 ①満18歳以上・24歳以下  
ただし、フェイズ参加時点。  
②男女不問  
③日常英会話(英検2級程度)  
④450m以上の泳力  
⑤心身とも健康  
⑥OR英国本部規定に準拠したORJCの選考基準を満たすこと。
- 選考 ★第1次=書類審査  
★第2次=体力・英語筆記審査(東京・大阪)  
★第3次=面接および英会話力審査(東京・大阪)
- 審査 ORJCから委嘱を受けたORJC実行委員会、ORJC事務局
- 活動 1987年2月~88年4月のうちの1フェイズ(3~4ヵ

月)に参加。

- 費用 参加実費は日本電装株式会社の協賛によりORJCが全額負担。(ただしパスポート申請費・健康診断費を除く)



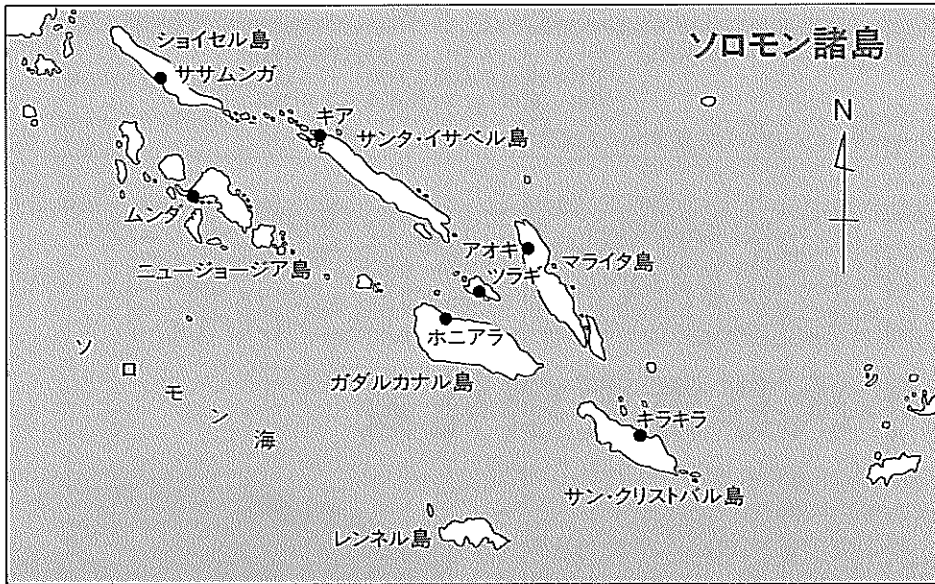
▲1986年次募集要項

## ●参加者(合格者)のスケジュール(予定)

フェイズ	日本代表 全人数	フェイズ 名	日程	主な活動内容
グアム→日本→ バブアニューギニア (帆船ゼフ号航海)	2 (16)	ゼフ9	1987年 2月17日 ↓ 6月23日	日本代表2名を含む16名のベンチャーがゼフ号に乗り組み、グアム→日本→バブアニューギニアの航海を行います。日本では名古屋、大阪、沖縄で活動します。
オーストラリア	6 (200)	9B	1987年 3月15日 ↓ 6月5日	オーストラリアのビクトリア地方のフェイズ。野生の鹿の調査、ミミズの調査、高山植物調査、海洋資源調査などさまざまな科学調査プロジェクトが予定されています。また古い牧畜小屋の修理、州立公園ビジターセンター建設作業などの奉仕活動。さらに岩登りやスキューバダイビングなどの冒険的プログラムも計画されています。
チベット	2 (10)	10B	1987年 4月8日 ↓ 6月20日	ネパールに集合して、東部チベットシサバンマ地域での動植物生態学研究、谷の比較研究、地図づくり、鳥類研究。シサバンマ山(8,012m)の登頂をめざします。
チベット	2 (10)	10C	1987年 6月8日 ↓ 8月16日	ラダック(カラコルム)までラサ・ポー川を下ります。
インドネシア	6 (200)	10F	1987年 7月8日 ↓ 9月31日	セラム島、スラウエン島(セレベス島)で、熱帯雨林の総合調査、野ブタの保存状況調査、井戸掘り、ポンプ設置、白内障の手術アシスト、潜水などを計画しています。
バブアニューギニア →スリランカ (帆船ゼフ号航海)	2 (16)	ゼフ10	1987年 8月23日 ↓ 9月28日	バブアニューギニアのポートモレスビーからゼフ号でスリランカに向かいます。
パキスタン	6 (100)	11A	1987年 8月16日 ↓ 11月1日	インダス川のいかた下りをしたり、登山訓練学校を建設したりします。インダス河口ではイルカの研究もします。
スリランカ→ アフリカ (帆船ゼフ号航海)	2 (16)	ゼフ11	1987年 9月28日 ↓ 12月22日	スリランカからモーリシャス諸島経由でアフリカへ航海します。
アフリカ→ブラジル (帆船ゼフ号航海)	2 (16)	ゼフ12	1987年 12月22日 ↓ 1988年 4月5日	アフリカから喜望峯経由でブラジルへ航海します。

# 1985年次第1陣ソロモン組

## 元気に出発前インタビュー



1985年次の第1陣として南太平洋ソロモン諸島でのフェイズに参加する渡辺道雄君、土居雅紹君が出発前のインタビューに答えてくれましたのでご紹介します。

— ORに応募した動機は何ですか  
**渡辺** もともと探検とか冒険に興味があったからです。また、スポンサーつきの外国旅行ができることも魅力でした。

**土居** 1984年次代表として参加した先輩の話に心を動かされました。

— 出発にあたって不安はありませんか。

**渡辺** ケガや病気。そしてもしかしたら命にかかわるような危険があるのではないかという不安はもちろんあります。けれどまあ、なんとかなるだろう、と思っています。それより外国人とのコミュニケーションのほうが不安です。

**土居** おおいにあります。いつどこで、何をやるのかサッパリ分らないからです。ソロモンが観光地ではなく、一般的な情報もほとんどないことも不安材料です。

— ORに対する家族、友人の反応はどうですか。

**渡辺** 家族は心配だが、3ヵ月位は変わった経験を積むのもよいだろう、といっています。友人はさまざま。「変わったヤツだ」「いいなあ」「おもしろいなあ」などなどです。



▲ 出発前のソロモン派遣組

**土居** 家族は黙ってじっと見ている感じ。学校の後輩は好意的です。

— 参加にあたっての抱負を聞かせてください。

**渡辺** 肉体的にも精神的にも非常に苦しい状況のなかで、自分がどれだけのことをやれるか、まず第一に知りたと思います。

**土居** 限界に挑戦し、新しいものの見方が養えたらと思います。

— これまでにどんな準備をしましたか。

**渡辺** 必要と思われるものの購入。また関係ありそうな本を読み、ダイビングのライセンスも取りました。

**土居** スキューバダイビングのライセンス取得。国際運転免許証。予防注射（コレラ、ポリオ、破傷風）などです。

— 準備でやり残したことはどんなことですか。

**渡辺** 英会話をみっちりやれなかったことです。

**土居** ダイビングのオープンウォーターまで取ること、禁煙、現地の風俗・言葉の研究などです。

— 現地では何を主眼に活動したいと思いませんか。

**渡辺** 自分の限界を知ること。どんな状況でも適応できるアウト・ドアの技術をマスターすること。いろいろな人間を見ること。

**土居** 自分の存在をはっきりさせ、座敷わらしのような存在にならないことです。

— 帰国後の予定はありますか。

**渡辺** たぶん学校を休学して行くので、再び外国へ行こうと思います。

**土居** たぶん留年するでしょう。そこで旅行とダイビングを中心にした生活または何かの資格をめざして勉強することになるかも知れません。

— お金はいくらもって行くつもりですか。

**渡辺** 8万円位です。

**土居** ドルに変えて20万円位です。

## ソロモン諸島フェイズ カヌー・潜水も計画

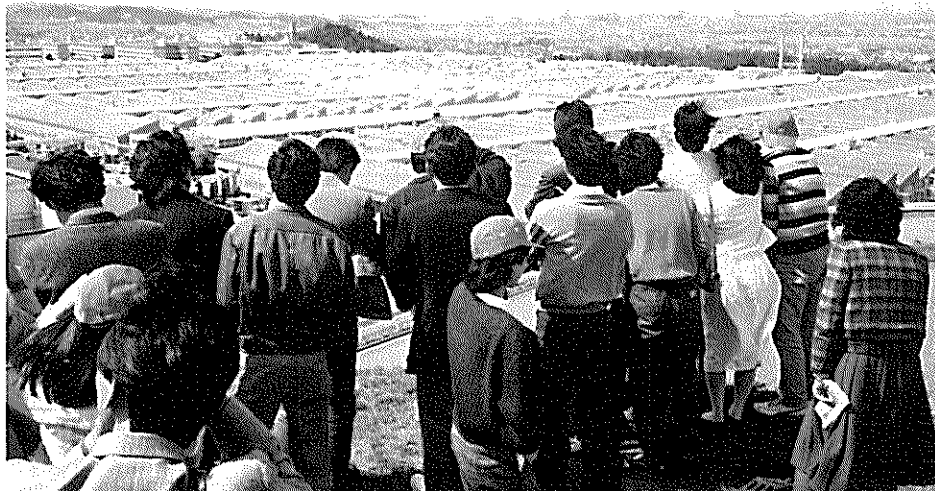
1985年次第1陣ソロモン諸島フェイズには、出発前インタビューに回答してくれた渡辺君、土居君に加えて、来住南輝君が参加します。当初の計画よりすでに出発が約1ヵ月遅れていますが、3君は4月9日成田空港から出発します。

ソロモン諸島は気温が年中摂氏22～30度の典型的な熱帯性気候。1942～43年にかけて太平洋戦争の激戦地となったところですが、このフェイズではつぎのような活動が予定されています。

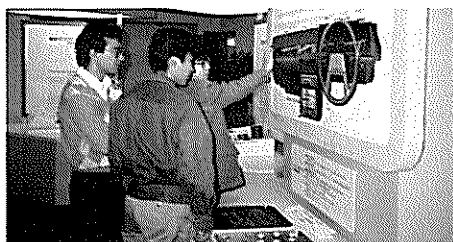
■ 主な活動／熱帯雨林調査、ニュージャーシー火山火口付近の植物・動物の生態調査、タロイモ段々畑の調査などが科学的プロジェクトとして予定されている。コミュニティー・ボランティア活動では国際赤十字社とともに医療救援センターの建設および学校や修道院の増改築作業に従事する。冒険的なプロジェクトとしては奥地での山登りやカヌーによる島々の探検、潜水などに参加する。

なお、このフェイズには総勢30名のベンチャラーがイギリスはじめ、各国から集まる。

# 1985年次代表日本電装へ



3月20日・21日の両日1985年次OR日本代表参加青年30名のうち、21名がOR協賛企業である日本電装を訪問しました。20日は同社の電装会館で宿泊、伊藤幸司実行委員から冒険旅行における写真撮影のノウハウについて講習を受けました。翌21日は、本社に田辺副社長（ORJC委員）を始め役員の方々を訪問、懇談会に参加しました。本社製品展示室などを見学したあと、同社工場のひとつである西尾製作所（愛知県西尾市）を見学、同製作所のスケールの大きさに「すごいなあ」を連発していました。



（写真）上：西尾製作所、中：懇談会  
下：本社製品展示室

## 本年度活動計画決まる

3年目に入ったORJC活動計画の承認および1985年次の日本代表募集要項の承認のためのORJC会議は3月7日開催され、永井委員長、田辺委員のほか実行委員、事務局員などの参加で、本年度の基本的な活動計画が承認されました。

- 主な本年度のORJC活動計画
- ★本年次派遣青年募集活動（3月20日～5月31日・全国一斉）
- ★1次～3次審査（6月上旬～9月



上旬)

★オペレーション・ローリーシンポジウム '86(7月4日・東京プレスセンターホール



## 帆船ゼブ号の動き

●ゼブ号は1月23日オーストラリアのアデレードからセドーナ島に向かいました。ベンチャーはここで4日間訓練を受け、ナイッツ・アーキペラゴ島での科学プロジェクトに参加します。このプロジェクトでベン

チャーたちは電波発信機をつけたネズミを追跡したり、タイガースネーク、アミメニシキヘビの生態調査をしたりします。（2月3日付ORウィークリーブリテンNo.27より）

●ゼブ号は2月24日アデレードにもどり再び、難破船ゾナニのある場所まで25マイルの小航海に出ました。この航海中、英国、米国、カナダ、香港から参加した14人のベンチャーたちは、ゾナニで海洋考古学プロジェクトに参加しています。このプロジェクトは潜水作業が多く、いくつかの興味のある発見があったようです。なお、このプロジェクトは3月末まで続けられます。

（3月11日付ORウィークリーブリテンNo.30より）

## 新しいチリ・フェイズ始まる

英国45人、カナダ3人、マレーシア3人、ニュージーランド5人、米国2人と6人のスタッフからなる遠征グループは3月6日サンチャゴに到着。プエルトモンテへ移動して国立公園の森林で活動中です。このグループは3つに分かれ、国立公園内での探検訓練、馬による旅行など5月20日の日程でチリでの活動を行なう予定です。

（3月11日付ORウィークリーブリテンNo.30より）

## 日本代表参加のチリ・フェイズ 大きな成果あげ終了

チリ南部は秋に向かいつつあり、気候は湿度が高く、風が強く、寒さが厳しくなってきました。すべてのベンチャーたちは3月15日にプエルトモンテ停泊中のSWR号で開かれるパーティーに間に合うようコヤイケ本部に引きあげています。彼らは3月17日までSWR号に残り、それからサンチャゴまで車で移動、3月20日には解散します。

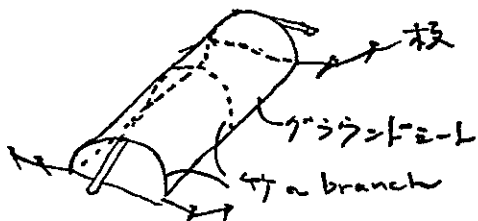
サン・ラファエロでのすべての科学プロジェクトは、大変うまくいったようです。その成果は同行した科学者たちによって後日出版されるでしょう。ベンチャーたちは氷河訓練などに参加した後、コヤイケの本部にもどっています。

（3月11日付ORウィークリーブリテンNo.30より）

# 日本代表派遣青年のページ

## 冒険に、奉仕にがんばるチリ・フェイズ

皆さん、元気になっていますか？そろそろ南太平洋フェイズが出発の準備に入っているのではないのでしょうか。私はサン・ラファエロ→マリнкаのポート旅行を終え、しばしの休日を楽しんでいるところです。高柳君たちの話ほどではなかったけれど食料難に悩みました。また、テントが足りず、私は每晚イラストのよう



なシェルターをつくって、ピバークしました。持ちものについては、OR本部のジョイニング・インストラクションの指示はちょっと多すぎます。ドレスなど正装は不要です。持ってきて重宝しているのはカサ、洗濯用ロープ、洗濯バサミ、グラウンドシート、長靴、サンダル、ウエストバッグ、スイスアーミーのナイフなどです。私はこれからマリнкаで建設プロジェクトに取り組む予定で、科学も冒険もコミュニティー活動もすべて参加できてラッキーです。

(2月21日/チリ・マリнкаにて  
加藤麻岐)

僕は1月9日から日本人ひとりだけチリチコでのプロジェクトに参加しています。ここではチリの自然保護局の仕事で山小屋づくり、道直しを20日間ばかりやりました。ともに非常にハードな仕事で、しかも食事の量が少なく当初はうらめしい思いもしましたが、いまでは量にも味にも慣れました。また、ワナでウサギを捕えて食べるサバイバル・トレーニングにも参加しました。

1月28日から2日間、約60kmの徒歩旅行をしました。みな足にマメをつくり、足首や背をいためる仲間が続出しましたが、この旅で快い一体感ができたようです。でも足のマメは9日たったいまも、まだ痛みます。実は1月26日から1週間僕はパトロール・リーダーという隊長役をやりました。ベンチャー18人とプロジェクト・リーダー4人からの大所帯の隊長です。とくに大変だったのは英語でミーティングをしなければならないこと。セカンドという補佐役のベンチャーたちに助けられながら何とかこなせました。徒歩旅行のときもリーダー任期中で、歩けなくなった女の子などの救助など大変でした。

いずれにしても英語力の大切さを

痛感しました。こちらに来てコンドルは5～6回見ました。そのなかの1回は3mぐらいのやつでした。またプーマもいるそうです。

チリチコの街はいまお祭りです。ここでは日本人が珍しく、街を歩いているとジロジロ見られます。しかし大抵は陽気に「Hora!」とあいさつしてくれます。街の人たちともだいぶ顔見知りになりました。お祭りのひとつにマラソン大会があり、僕も参加しました。デンソーのTシャツとハッピーで走ったので、地元の人にも、ベンチャーたちにも大受けでしたが結果はビリでした。

(2月5日/チリ・チリチコにて  
鈴木昭)

## チリ北部の動き

チリ北部のフェイズには日本からのベンチャーは参加していませんが、現地からのレポートを紹介しましょう。

〔プエルト・シズネス〕30フィートの橋、防波壁などの建設をすべて完了。ベンチャー、スタッフはコヤイケの本部に帰りました。

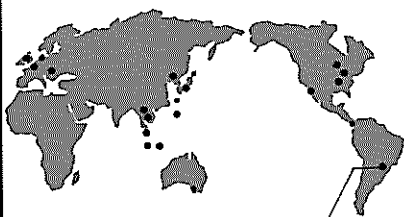
〔ケラット〕ベンチャーたちはケラット氷河で訓練を受けました。

〔ラ・タベラ〕馬でラゴ・ベルデまで移動し、そこで橋の建設作業プロジェクトに参加します。

〔プエルト・モント〕アルス国立公園で昆虫採集プロジェクトが行なわれ、貴重な科学データ、標本を制作しました。

### デンソーワールドワイドオペレーションNo.7 ———— ブラジル

## 情熱がエネルギー。



NIPPONDENSO COMPRESSORES LTDA.



気質から言っても、気候から言っても「情熱」という言葉がピッタリのブラジル。コーヒーの産地として、またリオのカーニバルでも有名ですが、南アメリカ1の自動車生産国という顔も持っています。日本電装もその中で、コンプレッサーやウォッシャーなどを製造、よりよいクルマづくりに貢献しています。あの、カーニバルに見られる情熱をもって、デンソーマンはこの国でも活躍中!

**NIPPONDENSO COMPRESSORES LTDA.**  
所在地: Rua João Chede, No.891, Cidade Industrial de Curitiba, Curitiba, PR, Brazil  
CEP: 80.000  
売上高: 976万ドル (19億5,200万円)  
従業員数: 348人

(1986年1月現在)



日本電装株式会社 〒448 刈谷市昭和町1-1 ☎(0566)22-3311